

(資料2-3)

柿 田 章 氏 資 料

平成10年度研修医数

大学名	本院	分院
岩手医科大学	37	1
日本大学医学部	142	68
日本医科大学	204	51
東邦大学医学部	94	65
東京医科大学	69	24
東京女子医科大学	216	29
東京慈恵会医科大学	116	48
慶応義塾大学医学部	289	4
昭和大学医学部	47	40
順天堂大学医学部	223	0
関西医科大学	119	4
大阪医科大学	150	2
久留米大学医学部	156	0
北里大学医学部	102	35
杏林大学医学部	144	0
川崎医科大学	77	0
聖マリアンナ医科大学	121	32
帝京大学医学部	99	52
藤田保健衛生大学	71	25
兵庫医科大学	154	0
愛知医科大学	74	0
福岡大学医学部	105	19
自治医科大学	80	16
埼玉医科大学	67	73
金沢医科大学	53	0
獨協医科大学	108	44
近畿大学医学部	103	0
東海大学医学部	139	10
産業医科大学	81	0
	3440	642

医大協発第42号
平成11年11月10日

厚生省

健康政策局長 伊藤雅治 殿

社団法人 日本私立医科大学協会

会長 石井昌三

要 望 書

卒後臨床研修の必修化にあたっては、研修医が研修に専念できる環境整備が私立医科大学においてもなされるよう、特に給与財源について適切な措置が図られることを強く要望します。

記

昭和43年度に発足いたしました臨床研修制度は、その創設の理念に基づき、国民の信頼に応え得る人格、識見、医療知識及び技術ともに備わった医師を育成するために運用されてまいりました。

私立医科大学は、臨床研修制度創設の当初より本制度の精神に賛同し、医師の初期研修の重要性を十分認識し最大限の努力を重ねてまいりました。

さて、先般医療関係者審議会臨床研修部会において合意された臨床研修の必修化につきましては研修に関連して更に一步踏みこんだ制度として当協会としても大きな関心をもっております。

臨床医を目指す医師すべてに一定の臨床的、学問的レベルをもつ施設でよく吟味された研修プログラムに沿った初期研修を受ける機会をもたせ、また知識や技術の習得のみにとどまらず、病める患者の立場を深く理解し、Evidence Based Medicine (科学的根拠に基づく医療) に則って診療を行い得る能力を身につけさせることは、医科大学の果すべき大きな使命でもあります。その意味において当協会も研修医の必修化は望ましいものであると考えております。

しかし、ここにひとつ解決されなければならない大きな問題があります。研修医に対する手当てに関しましては現在、国公立医科大学あるいは国立病院と私立医科大学の間には大きな差があることであります。

即ち、前者においては、研修医は非常勤国家公務員あるいは地方公務員として相当額の給与が支給されているのに反し、私立医科大学に対する国の臨床研修費等補助金は元来研修医の給与にあてられるものでなく、指導医の手当・図書購入等臨床研修を行うために必要な諸経費をまかなうためのものであり、したがって、私立医科大学におきましては研修医に対し、大多数の私立医科大学では、少額の奨学金のみを支給しているのが現状です。

研修の必修化が行われるようになれば、当然このような格差・不公平感は是正されるものと思っておりましたが、残念ながら先般の医療関係者審議会臨床研修部会の報告書においてもその点についての明確な見解は示されておられません。

報告書には研修中の医師に対する手当てに関し、「具体的な費用負担については国および医療保険の双方が負担している現状を踏まえ、今後その在り方を整理する。」という記載にとどまっております。

この表現では国公立大学と私立医科大学との間に現に存在する格差・不公平感について言及されたとは思えず、私立医科大学関係者は大変落胆いたしております。

かねてご賢察賜っておりますように昨今、私立医科大学をめぐる財政事情は誠に厳しいものがあり、私立医科大学がその医療収入の中から自ら研修医に給与を支給することは、まず不可能であります。

この問題に関し、厚生省におかれましては引き続き検討努力を賜る旨承っておりますが、重ねて研修医が研修に専念できる環境整備が私立医科大学においてもなされるよう切に要望いたします。

臨床研修医の手当等調査(平成13年5月現在)

単位:円(月額)

大学名	研修期間	研修医の呼称名	研修医に対する手当の金額	手当の名称	健康保険加入
岩手医科大学	2年	臨床研修医	総合診療方式 100,000 ローテート方式 50,000 ストレート方式 50,000	臨床研修医手当	医師国保(本人)
日本大学医学部 ※	2年	臨床研修医	30,000	研修医手当	×
日本医科大学	2年	臨床研修医	50,000	臨床研修医手当金	×
東邦大学医学部	2年	臨床研修医	80,000	研修医手当	×
東京医科大学	2年	臨床研修医	50,000	奨学金	×
東京女子医科大学	2年	臨床研修医	45,000	奨学金	×
東京慈恵会医科大学	2年	臨床研修医	50,000	奨学金	×
慶應義塾大学医学部	2年	研修医	25,000	奨学金	×
昭和大学医学部	2年	臨床研修医	1年目 45,000 2年目 50,000	臨床研修医手当	×
順天堂大学医学部	2年	臨床研修医	1年目 50,000 2年目 60,000 3年目 70,000(内科のみ)	奨学金	×
関西医科大学	2年	臨床研修医	125,000	臨床研修医手当	私共済加入
大阪医科大学	2年	臨床研修医	125,000	奨学金	私共済加入
久留米大学医学部	2年	臨床研修医	75,000	研修奨学金	×
北里大学医学部	2年	臨床研修医	150,000	給与	私共済加入
杏林大学医学部	2年	臨床研修医	1年目 60,000 2年目 70,000	研修医手当	×
川崎医科大学	2年	臨床研修医	1年目 140,000 2年目 162,000	給与	雇用保険 私共済加入
聖マリアンナ医科大学	2年	臨床研修医	60,000	研修金	×
帝京大学医学部	2年	臨床研修医	60,000	奨学金	×
藤田保健衛生大学	2年	臨床研修医	1年目 165,000 2年目 170,000	奨学金	私共済加入
兵庫医科大学	2年	臨床研修医	129,000	研修手当	私共済加入
愛知医科大学	2年	臨床研修医	総合診療方式 163,000+当直料 ローテート方式 70,000+当直料	奨励金	社会保険(労災保険適用) 社会保険なし(労災保険のみ適用)
福岡大学医学部	2年	臨床研修医	75,000	研修医手当	私共済加入
自治医科大学	2年	ジュニアレジデント	1年目 193,700 2年目 201,700	報酬	私共済加入
埼玉医科大学	2年	臨床研修医	150,000	給与	私共済加入
金沢医科大学	2年	臨床研修医	1年目 150,000 2年目 160,000	給与	私共済加入
獨協医科大学	2年	臨床研修医	1年目 120,000 2年目 160,000	給与	私共済加入
近畿大学医学部	2年	臨床研修医	80,000	臨床研修医補助金	×
東海大学医学部	2年	臨床研修医	1年目 185,000 2年目 185,000	給与	私共済加入
産業医科大学	2年	臨床研修医	158,400	給与	雇用保険 私共済加入

※日本大学医学部は総合臨床研修医として別制度有り(月額15万円)

初期臨床研修プログラム 卒業後教育カリキュラム

平成13年度

北里大学病院
北里大学東病院

初期臨床研修プログラム

平成 13 年度

北里大学病院

北里大学東病院

目 次

	頁
共 通 項 目	1
参 加 施 設 一 覧	6
内 科	19
皮 膚 科	37
精 神 神 經 科	41
外 科	45
心臓血管・呼吸器外科	52
整 形 外 科	56
形 成 外 科	60
脳 神 經 外 科	64
眼 科	68
耳 鼻 咽 喉 科	76
泌 尿 器 科	82
麻 醉 科	87
産 婦 人 科	91
小 児 科	97
放 射 線 部	102
臨 床 検 査 部〔臨床病理〕	105
救命救急センター部〔救命救急医学〕	108
自 己 評 価	111

本初期臨床研修プログラムは、北里大学病院並びに北里大学東病院における卒後臨床教育の手引として作成した「北里大学病院医師卒後教育カリキュラム」から、各科プログラムの1年目・2年目の分をもととして、必要項目を加え詳細に明記したものである。このため、各科とも初期臨床研修プログラム修了後（職位名称：研修医）は北里大学病院医師卒後教育カリキュラムに基づき、引き続き3～4年間の後期研修（職位名称：病棟医）を継続して行うこととしている。

なお、本プログラムの基幹病院は北里大学病院及び北里大学東病院とした。両大学病院を基幹病院とするのは、北里大学病院が昭和46年7月に開院した後、地域的立地条件からくる社会ニーズ等により入院・外来患者数が大幅に増加したことにより、要求される医療の提供が困難になったため、地域医療の核として、より高度な医療を効率的且つ集約的に提供するため、消化器疾患治療部門、慢性疾患・難治疾患治療部門、精神神経疾患治療部門を中心に北里大学病院から一部診療科の中心を北里大学東病院に移し昭和61年4月に開院したことから、一部診療科の臨床研修の場も北里大学東病院に移ったためであり、今後も両大学病院が連携し教育、研究、診療を実践していくためである。

また、各科の初期臨床研修プログラムに共通する項目〔例：勤務に関する処遇、資料請求先等〕は以下に記載し、各科の「初期臨床研修プログラム」が見やすいものとなるよう配慮した。

《共通項目》

病院の概要

〔北里大学病院〕

昭和46年7月に「患者中心の医療」をモットーに開院した北里大学病院は許可病床数1,069床を有する総合病院であり、平成5年12月に特定機能病院として承認された施設である。

診療各科は内科系、外科系、小児系、母性系、放射線部、臨床検査部、中央診療施設系部及び救命救急センター部に分けられ、さらに平成10年4月の新棟オープンに伴い各科の連携をより強化するためセンター化を進め、腎センター・周産母子センターに加え新たに呼吸器センター・心臓血管センター・脳血管センターを設置した。

また、大学病院として「診療・教育・研究」を実践するためより高度な医療を提供し、教育機関としての機能及び新しい医療技術の研究・開発を推進している。

《病床数》…許可病床数1,069床

《標榜科》…内科、精神神経科、小児科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、形成外科、美容外科、歯科の23科

診療科名	内科	精神	皮膚	外科	心・呼外	脳外	整形	形成	眼科
医師数	84	4	15	22	14	18	18	18	20
病床数	253		33	96	51	63	77	54	47
1日平均外来患者数	1050	39	271	197	54	89	230	77	287
1日平均入院患者数	263		22	78	42	48	62	40	28

診療科名	耳鼻	泌尿	麻酔	産婦	小児	放射	臨検	救急	計
医師数	16	15	12	22	25	10	3	12	328
病床数	69	48	3	93	90			35	1,012
1日平均外来患者数	248	148	22	262	234	36		(50)	3,244
1日平均入院患者数	70	50	1	82	93			(33)	879

※医師数については研修医を除く。

※科別病床数のうち特別個室57床は含まず。

部門名	病院病理	放射線・核医学	臨床検査部	病歴部門	図書室
剖件数/年	105				
取扱件数/年	39,952	281,810	5,930,581	32,224	
面積					2445.0

〔北里大学東病院〕

北里大学東病院は大学病院から約600m東寄りにある580床を有する病院で、次の3センターを中心に診療を展開している。すなわち、消化器疾患治療センター、慢性疾患・難治疾患治療センター、精神神経疾患治療センターが、それぞれ次のような特徴をもち、地域の基幹病院として、また教育病院として機能していくことを目指している。

- ① 消化器疾患に対する集学的治療（消化器疾患治療センター）
- ② 変性疾患を中心とする神経内科と整形外科（慢性疾患・難治疾患治療センター）
- ③ 救急医療を含む精神科医療（精神神経疾患治療センター）

以上の3センターを中心にチーム医療の推進、社会に開かれた病院（総合相談、訪問医療等）、医療情報トータルシステムの導入などを特徴に診療を行っている。

大学病院が総合病院であるのに対し、東病院は専門科が中心であり両病院合同で卒後研修に取り組んでいる。

《病床数》…許可病床数580床

《標榜科》…内科、精神科、神経内科、消化器科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、形成外科、心療内科、こう門科、リウマチ科、循環器科の21科

診療科名	内科	精神	皮膚	外科	脳外	整形	形成	眼科
医師数	52	29	1	35		15		3
病床数	218	129		129		88		
1日平均外来患者数	474	395	33	164		150		54
1日平均入院患者数	201	126		120		77		

診療科名	耳鼻	泌尿	麻酔	婦人	放射	理学	計
医師数	2	2	7		5	1	152
病床数							564
1日平均外来患者数	25	31	1	2	5	34	1368
1日平均入院患者数							524

※科別病床数のうち治験16床は含まず。

部門名	病院病理	放射線・核医学	臨床検査部	病歴部門	図書室
剖件数/年	69				
取扱件数/年	9,571	62,451	1,215,043	431,718	
面積					180.63

プログラム指導者

基幹病院の指導責任者並びに各科別のプログラム責任者は以下のとおり。又、参加施設（教育連携病院）の指導者等については各科の初期臨床研修プログラムに記載。

〔基幹施設〕

北里大学病院〔指導責任者〕 病院長 柿田 章
 北里大学東病院〔指導責任者〕 病院長 西元寺 克禮

【プログラム指導者（北里大学病院、北里大学東病院共通）】

- (1)内 科 北里大学病院消化器内科長 西元寺 克禮
- (2)皮 膚 科 北里大学病院皮膚科科長 勝 岡 憲生
- (3)精神神経科 北里大学東病院精神神経科科長 宮 岡 等
- (4)外 科 北里大学病院外科科長 柿 田 章
- (5)心臓血管・呼吸器科 北里大学病院呼吸器外科科長 吉 村 博 邦
- (6)整形外科 北里大学病院整形外科科長 糸 満 盛 憲
- (7)形成外科 北里大学病院形成外科科長 内 沼 栄 樹
- (8)脳神経外科 北里大学病院脳神経外科科長 藤 井 清 孝
- (9)眼 科 北里大学病院眼科科長 清 水 公 也
- (10)耳鼻咽喉科 北里大学病院耳鼻咽喉科科長 岡 本 牧 人
- (11)泌尿器科 北里大学病院泌尿器科科長 馬 場 志 郎
- (12)麻 醉 科 北里大学病院麻酔科科長 外 須 美 夫
- (13)産 婦 人 科 北里大学病院産婦人科科長 西 島 正 博
- (14)小 児 科 北里大学病院小児科科長 松 浦 信 夫
- (15)放射線科 北里大学病院放射線部部長 早 川 和 重
- (16)臨床病理 北里大学病院臨床検査部生理検査主任 狩 野 有 作
- (17)救命救急センター部 北里大学病院救命救急センター部部長 大 和 田 隆

参加施設

参加施設（教育連携病院）については、各科別プログラムを、施設概要等は一覧表を参照。

プログラムの管理運営体制

本プログラムの運営にあたり、各科プログラム指導者は作成したプログラムを北里大学病院、北里大学東病院卒後教育委員会（以下「卒後教育委員会」という）に提出し承認を得る。

そして、各科プログラム指導者は講師などのスタッフをはじめ各参加施設（教育連携病院）プログラム責任者と緊密な会議等により連絡をとり運営を行う。（詳細は各科の項目を参照）また、定期的に基幹施設及び参加施設（教育連携病院）の連絡委員による会議等を開催し問題提示並びに解決を図る他、緊急に解決等を要する場合については適宜関係者を招集し解決する。

研修方式

研修方式はローテイト方式及び総合診療方式（スーパーローテイト方式）とする。

【ローテイト方式】

志望する診療科に所属し各科のプログラムに基づき、内科系希望者は外科系または救命救急センター部を、外科系希望者は内科系または救命救急センター部を最低3ヶ月以上研修する。ローテイト期間は原則として3ヶ月またはその倍数とする。

【総合診療方式】

特定の診療科に所属しないで内科系・外科系（麻酔科含）・小児科・救命救急センター部を最低3ヶ月以上研修する。

期間割

5月	8月	11月	2月	5月	8月	12月	3月	4月
自由1	自由2	自由3	自由4	小児科	麻酔科 (4ヶ月)	救命救急	志望科	

※自由1～4は内科系から少なくとも一つは希望により選択する。

※各科の受入れ可能人数により選択科及びローテイト時期を調整する場合がある。

※3年目以降も引き続き研修を希望する者は原則として2年目の10月までに志望科を決定する。

定員、収容定員

定員は、当該年度にプログラムに参加できる研修医（1年次、2年次）の数。
収容定員は2年間の総研修医数の上限である。

これは原則として実働10病床あたり研修医1人を基準としているが、基幹施設及び参加施設（教育連携病院）を併せて、その実働病床数を勘案して算定し、プログラム指導者の判断によって定められる。また、病床を有さない科（部門）については、一定の基準に基づいて収容定員を算出した。

科名	内科	精神	皮膚	外科	胸外	脳外	整形	形成	眼科	耳鼻
定員	40	10	6	15	4	6	18	4	8	4
収容定員	80	18	11	30	8	12	36	8	16	8

科名	泌尿	麻酔	産婦	小児	放射	臨検	救急	計
定員	5	22	9	7	4	2	2	166
収容定員	10	28	18	14	8	4	4	318

選考方法

各科別に面接等の選考を行なった後、研修医採用手続きを行なう。
詳細は各科プログラムの定員欄を参照。

教育に関する行事

研修開始時にオリエンテーションを実施し、基幹病院の諸規程並びに医事法規等の解説をはじめとして、病院内見学、ME機器の使用説明及びカルテの記入説明等研修医として勤務に必要な知識の修得を図り、そして同時に「保険医療新規講習会」も実施し保険医としての知識修得も行なう。その他の行事については、各科プログラムを参照。

評価

全科を通じた共通の評価方法は、研修開始時に配布する研修記録簿に研修状況を記録し、到達目標達成の有無を判断すると共に指導医の申告並びに自己評価をチェックし判断する。これに、各科独自に行われる評価（基幹病院、参加施設を含む）を加え、プログラム責任者が総合判定し、卒後教育委員会に報告する。
卒後教育委員会では、前述の報告を基に最終評価を行う。

プログラム修了の認定

前記の卒後教育委員会の最終判定を基に大学病院長がプログラム修了者に対し、修了証書を発行することができる。

プログラム修了後のコース

プログラム修了後のコースとしては、病棟医に進むコースと北里大学医療系大学院へ進学するコースがある。

研修医の処遇

給与、諸手当、勤務時間等の処遇については、基幹病院並びに参加施設（教育連携病院）の規程による。

〔基幹病院の処遇〕

- 職 位 : 研修医（専任職員）
勤務時間 : 原則として午前8時30分～午後5時
給 与 : 1年次、2年次ともに150,000円（現行）
諸手当有り（通勤手当、住宅管理手当、扶養手当、宿日直手当）
賞 与 : 1年次、2年次ともに無支給
宿 舎 : レジデントドミトリ-有り（実費）
その他勤務条件 : 上記の勤務時間、給与を含め、北里大学病院・北里大学東病院職員就業規則、勤務時間管理規程、職員給与規程による。

資料請求先

〒228-8555 神奈川県相模原市北里1-15-1
北里大学病院 事務部職員課教育研修係
TEL 042-778-9034
FAX 042-778-9371

北里大学病院
医師卒後教育カリキュラム

平成 13 年度

目 次

	頁
研修医・助手（病棟医）勤務の指標	1
各科卒後教育〔研修医、助手（病棟医）〕カリキュラム表	3
各科卒後教育〔研修医、助手（病棟医）〕カリキュラム説明および内容	21
内 科	22
① 消化器	28
② 内分泌	33
③ 糖尿病およびその他の代謝疾患	37
④ 循環器	39
⑤ 腎	41
⑥ 造血・血液	42
⑦ 神経・筋肉	44
⑧ 膠原病・アレルギー疾患	47
⑨ 呼吸器	49
皮 膚 科	52
精 神 神 経 科	54
外 科	56
心臓血管・呼吸器外科	68
整 形 外 科	69
形 成 外 科	73
脳 神 経 外 科	75
眼 科	77
耳 鼻 咽 喉 科	80
泌 尿 器 科	87
麻 酔 科	90
産 婦 人 科	92
小 児 科	98
放 射 線 部	100
臨 床 検 査 部	101
病 院 病 理 部	106
救命救急センター	108

研修医・助手（病棟医）勤務の指標

I) 基本的任務

研修医、助手（病棟医）は病院長の医師として、希望する診療科に配属され、各診療科長の指導のもとに受持医となり、主治医の指示する診療を受けて診療を行う。

またICU・CCU、麻酔科、放射線部、臨床検査部等に勤務する場合は、当該部長の指導のもとに診療にあたる。

II) 職務

研修医、助手（病棟医）は当該診療科の医療上の行為に関しては、次にかかげるような職務を遂行しなければならない。

1) 診療について

主治医が決定した診療計画に基づき医学的に正しい診療を行う。

- a) 新しく入院した患者を受持つ場合には直ちに既応症、現病歴などを聴取し、診療を行う。
- b) 受持患者の病歴を作成し、検査所見を整理する。
- c) 新しく入院した患者を受持った場合、或は受持患者の症状に急変が生じた場合は直ちに主治医に連絡する。
- d) 受持患者の特殊な検査および処置は主治医の指導のもとに自ら行う。
- e) 科長または主任の回診時には、病状、検査、概診（考え得る診断）、処置等の報告をする。
- f) 受持患者の退院時には、予定される退院後の処置について主治医の指示を受け、入院病歴の総括を整理する。
- g) 原則として退院患者の病歴は毎日午前9時に病歴センターに提出される。従って毎日午前9時以後に退院した患者の病歴は提出前に整理されていなければならない。
- h) 受持患者の病理解剖に立合う。その場合受持患者の病歴総括を解剖開始前に作成し、主治医の検閲を受けた後、病理解剖担当者に提出する。
- i) 病棟に勤務する受持医は次の各項に関する業務を行う場合には事前に科長または主任と協議の上指示を受ける。
 - 1) 治療方針の決定。
 - 2) 患者およびその関係者と治療指針について説明の上協議し、必要に応じて予後について見解を明らかにする。

ハ) 特に重要な処置，検査，手術，その他。

ニ) 退院の決定。

ホ) 緊急の事態に以上の手続を経ずに実施した場合には，事後出来る限り速かに科長または主任に報告し，その承認を得る。

ヘ) 受持患者の剖検の実施。

ジ) 外来においては科長または主任，ないし外来医長（仮称）の指示の下に診療を行う。

ク) 当直勤務

別に定めた当該当直申合せに従い勤務する。

2) 研究について

a) 症例研究ないし臨床研究を行いその結果を発表する。

b) 研修ならびに修練をうけている科の各種研究会（クルズス，抄読会，症例検討会など）に出席する。

c) 病院で主催する総合的研究会（CPC，放射線カンファレンス等）に出席する。

d) 所属科長の承認を得て学会，研究会に参加することができる。

e) 学会，研究会に出席した場合は報告書を院長に提出する。

f) 学会，研究会における演者には旅費を支給する。

3) 学生臨床教育に関する任務

研修医、助手（病棟医）は科長が決定した実施計画に従事しなければならない。

4) 勤務時間内は以上 1) 2) 3) に掲げた業務に専念することとし，その他の詳細については当該科にて定める診療などに関する指示に従うものとする。

III) 著作規定

1) 病院の資料を含んでいる論文発表に際しては，当該診療科長の許可を得なければならない。

2) 研修医、助手（病棟医）が主として行った共同研究論文の報告に際しては第一著者の資格が与えられる。

IV) 患者に対する責任

1) 患者に対して不必要な肉体的，精神的苦痛を与えることを避けるべきである。

2) 患者の訴えを誠意をもって聞くべきである。

3) 個人の秘密に属することを発表してはならない。もしその必要があれば主治医に連絡する。

各科卒後教育（研修医、助手（病棟医））

カリキュラム表

卒後教育カリキュラム概要

1. 臨床 所定のカリキュラムに従って研修並びに修練を行う。
2. 研究 (1) 研修並びに修練を行っている科の各種研究会（クルズス，講義，抄読会，症例検討会，その他）に出席する義務がある。
(2) 病院で主催する研究会（CPC，放射線カンファレンス等）に出席する義務がある。
(3) 症例研究ないし，各種臨床研究を行い，発表する義務がある。
3. 教育 助手（病棟医）は，学生臨床実習の教育及び研修医の指導に参加する。

註1. 研修並びに修練内容記載の義務

研修医，助手（病棟医）は，上記研修並びに修練内容を，所定の研修・修練記録簿に記載し，病院長に報告する義務がある。

註2. 上記研修・修練記録によって，卒後教育委員会は研修医，助手（病棟医）を正當に評価し，卒後教育内容の改善を促す。

内 科

	研 修 医		助 手 (病棟医)			
	1 年	2 年	出向(原則1年間)	1 年	2 年	3 年
外 来	外来で科長, 主任の指導を受け, 一部業務を分担する。		連携病院で内科及び関連領域の広範囲にわたる研修を行なう。	全員が専門外来と総合(初診)外来に参加する。		
病 棟	主治医の指導のもとに受持医となる。 (最初の一定期間助手(病棟医)とともに受持つ)			受持医となり主治医の指導を受けるが同時に研修医に助言を与える。	チーフレジデントとなり研修医の指導を行う。	
検 査	受持患者についての一般検査を行う。(臨床病理部で指導を受ける。)			専門的な検査を行う。 (例: 消化管レントゲン, 心臓カテーテル動脈撮影等) スタッフの指導のもとに主たる検査者となりうる。		
当 直	助手(病棟医)、スタッフと組み行う。					
研 修 の 基 準	日本内科学会認定内科専門医制度研修カリキュラム案による研修項目の A 及び a を研修医の目標とし, B, C 及び b, c の項目を助手(病棟医)の研修項目に含ませる。					
ローテーション	内科内の subdivision をローテイトする。	内科内の subdivision、外科系の 1 科、並びに関連科をローテイトする。	内科学会認定病院で院外研修する。	原則として専門の subdivision に固定。	関連専門部門にローテイトしうる。時に、臨床研究に参加する。	
					primary care 実習の場として只見診療所の勤務を含む。	
他科よりのローテーション: 原則として研修医の Training を行う。						

外 科

	研 修 医		病 棟 医					
	研修医 1 年	研修医 2 年	病棟医(出向)	病棟医 1 年	病棟医 2 年	病棟医 3 年		
外 来	な し		出向先に従う	一般外来を担当 (週 1 回程度)				
病 棟	受持ち医となり主治医の指導を受ける。		出向先に従う	主治医として診療に当たる。		チーフレジデントまたは主治医		
手 術	4 カ月目から術者となりうる。当初はヘルニア、虫垂炎、痔核など。後半以後に胃瘻、腸瘻造設術など。	良性疾患の術者となりうる。甲状腺腺腫、胆嚢結石、胃潰瘍、腸切除術、人工肛門造設術、下肢静脈瘤などに準じた手術。	出向先のカリキュラムによるが、出来る限り大学病院の基準に沿った形での研修を依頼する。	悪性疾患の簡単なものの術者となりうる。早期の消化器癌、乳癌、甲状腺癌、Basedow 病、十二指腸潰瘍の手術、腰部交感神経切除術、総胆管の手術、新生児の人工肛門造設術など。	進行癌のうちで簡単なもの術者となりうる。進行胃癌、大腸癌、乳癌、小児の腸重積など。	胃全摘、直腸切断術、胸部交感神経切除術、小児の横隔膜ヘルニアなど。後半には胆道再建、血行再建などのうち簡単なもの術者となりうる。		
当 直	副当直見習い (3 カ月)、以後副当直		出向先に従う	主 当 直				
ローテーション	原則として習得、 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle; border: none;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</td> <td style="padding-left: 5px;"> 麻酔科 検査 (内視鏡、レントゲン、超音波) 救命救急センター </td> </tr> </table> 研修医の 2 年間に麻酔科・内科系・小児科等をローテイトする。						{	麻酔科 検査 (内視鏡、レントゲン、超音波) 救命救急センター
{	麻酔科 検査 (内視鏡、レントゲン、超音波) 救命救急センター							

研 修 内 容 報 告 書

平成	年度	科	年	氏名	科長	㊟
○ 研 修 歴						
期		間		病 院		科 名
○ 疾患別入院患者数						総数
小 分 類 (各科で記載)						
○ 手術経験症例数						総数
小 分 類 (各科で記載)						
○ 麻酔研修症例数			期間	年	月	日～ 年 月 日
○ 剖 検 例 数						
						総数
小 分 類						
○ 救 急 患 者 数						総数
○ 特殊検査・手術実施記録						
分 類 内 容						
○ 業 績		文 献		編 学 会 発 表		編

研 修 歴 記 録

期 間	病 院 名 病棟(科)名	研 修 内 容 記 事	教 育 責 任 者 印
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			
年 月 日より 年 月 日まで			

外科系入院患者記録

病院名 _____
診療科 _____

19. ____ 年

整理 No	No	才	診 断	手術・治療・特殊検査	施行医
	患者名	男・女			
	入院	転帰			
	退院	剖検No			
整理 No	No	才	診 断	手術・治療・特殊検査	施行医
	患者名	男・女			
	入院	転帰			
	退院	剖検No			
整理 No	No	才	診 断	手術・治療・特殊検査	施行医
	患者名	男・女			
	入院	転帰			
	退院	剖検No			
整理 No	No	才	診 断	手術・治療・特殊検査	施行医
	患者名	男・女			
	入院	転帰			
	退院	剖検No			
整理 No	No	才	診 断	手術・治療・特殊検査	施行医
	患者名	男・女			
	入院	転帰			
	退院	剖検No			
整理 No	No	才	診 断	手術・治療・特殊検査	施行医
	患者名	男・女			
	入院	転帰			
	退院	剖検No			
整理 No	No	才	診 断	手術・治療・特殊検査	施行医
	患者名	男・女			
	入院	転帰			
	退院	剖検No			

手術經驗症例

病院名 _____
診療科 _____

19 ____ 年

整理 No	(No.) 患者名	男・女	疾患名	(手術日)	術式	
		才				
	()	男・女		()		術者
		才				第1助手
						第2・3助手
	()	男・女		()		術者
		才				第1助手
						第2・3助手
	()	男・女		()		術者
		才				第1助手
						第2・3助手
	()	男・女		()		術者
		才				第1助手
						第2・3助手
	()	男・女		()		術者
		才				第1助手
						第2・3助手
	()	男・女		()		術者
		才				第1助手
						第2・3助手
	()	男・女		()		術者
		才				第1助手
						第2・3助手
	()	男・女		()		術者
		才				第1助手
						第2・3助手
	()	男・女		()		術者
		才				第1助手
						第2・3助手
	()	男・女		()		術者
		才				第1助手
						第2・3助手
	()	男・女		()		術者
		才				第1助手
						第2・3助手
	()	男・女		()		術者
		才				第1助手
						第2・3助手

()

受持医

救 急 患 者 記 録

整理 No.	病院名	病歴 No.	診断名	
	患者名	才	処置・その後の経過	
		男・女		
入院年月日 時刻 年 月 日 午 前後 時 分				
整理 No.	病院名	病歴 No.	診断名	
	患者名	才	処置・その後の経過	
		男・女		
入院年月日 時刻 年 月 日 午 前後 時 分				
整理 No.	病院名	病歴 No.	診断名	
	患者名	才	処置・その後の経過	
		男・女		
入院年月日 時刻 年 月 日 午 前後 時 分				
整理 No.	病院名	病歴 No.	診断名	
	患者名	才	処置・その後の経過	
		男・女		
入院年月日 時刻 年 月 日 午 前後 時 分				
整理 No.	病院名	病歴 No.	診断名	
	患者名	才	処置・その後の経過	
		男・女		
入院年月日 時刻 年 月 日 午 前後 時 分				
整理 No.	病院名	病歴 No.	診断名	
	患者名	才	処置・その後の経過	
		男・女		
入院年月日 時刻 年 月 日 午 前後 時 分				

麻 醉 研 修 記 録

整理 Nr. _____

病院名	病歴 Nr.	手術日 19 年 月 日
患者名		手術名
年令	性別	
OR Nr.	科名	麻醉方法、麻醉剤
手術診断		
		指導医名
病院名	病歴 Nr.	手術日 19 年 月 日
患者名		手術名
年令	性別	
OR Nr.	科名	麻醉方法、麻醉剤
手術診断		
		指導医名
病院名	病歴 Nr.	手術日 19 年 月 日
患者名		手術名
年令	性別	
OR Nr.	科名	麻醉方法、麻醉剤
手術診断		
		指導医名
病院名	病歴 Nr.	手術日 19 年 月 日
患者名		手術名
年令	性別	
OR Nr.	科名	麻醉方法、麻醉剤
手術診断		
		指導医名
病院名	病歴 Nr.	手術日 19 年 月 日
患者名		手術名
年令	性別	
OR Nr.	科名	麻醉方法、麻醉剤
手術診断		
		指導医名

平成 14 年度

研修医募集要項

6. 選考及び採用 (1) 選考は提出書類及び面接により行う。
(2) 平成13年12月上旬より中旬に行う。
(3) 採否は選考後、書類をもって本人あて通知する。
7. 研修開始 平成14年5月。但し、すでに医師免許を取得している者は4月。
8. 申込締切日 平成13年11月30日(金)
9. 問合せ及び提出書類送付先

郵便番号 228-8555

神奈川県相模原市北里一丁目15番1号

北里大学病院職員課教育研修係

TEL 042-778-9034 (直通)

10. その他 所在地 北里大学病院

(問合せ先に同じ)

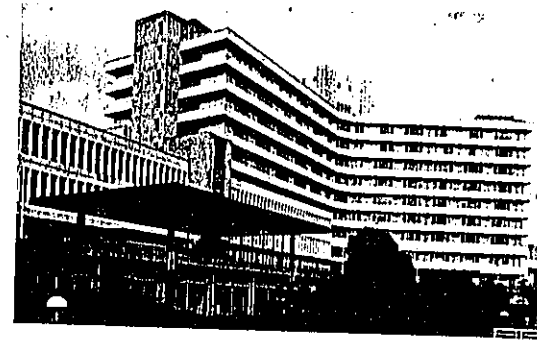
交通 新宿より小田急線、急行にて40分「相模大野駅」下車、
神奈川中央バス、北里大学病院行にて20分北里大学病
院下車。

所在地 北里大学東病院

神奈川県相模原市麻溝台2-1-1

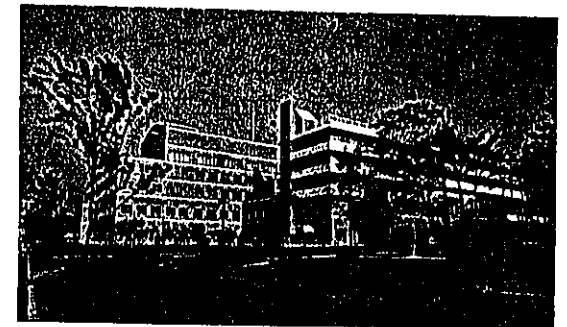
TEL 042-748-9111 (代表)

交通 新宿より小田急線、急行にて40分「相模大野駅」下車、
神奈川中央バス、北里大学病院行にて15分、北里大学
東病院下車。



北里大学病院

北里大学東病院



病院長 栢田 章
東病院長 西元寺 克 禮

北里大学病院は下記の要領に従って 平成14年度研修医を募集いたします

病院の概要

◎北里大学病院

昭和46年7月に「患者中心の医療」をモットーに開院した北里大学病院は許可病床数1,069床を有する総合病院であり、日本で有数の患者数及び手術数を誇り、臨床研修病院として十分に卒後研修目標を達成出来る施設である。

診療各科は内科系、外科系、小児系、母性系、放射線部、臨床検査部、中央診療施設系部及び救命救急センター部に分けられ、さらに平成10年4月の新棟オープンに伴い各科の連携をより強化するためセンター化を進め、腎センター・周産母子センターに加え新たに呼吸器センター・心臓血管センター・脳血管センターを設置した。

また、大学病院として「診療・教育・研究」を実践するためより高度な医療を提供し、教育機関としての機能及び新しい医療技術の研究・開発を推進している。

◎北里大学東病院

北里大学東病院は大学病院から約600m東寄りにある580床を有する病院で、次の3センターを中心に診療を展開している。すなわち、消化器疾患治療センター、神経・運動器疾患治療センター、精神神経疾患治療センターが、それぞれ次のような特徴をもち、地域の基幹病院として、また教育病院として機能していくことを目指している。

- ① 消化器疾患に対する集学的治療（消化器疾患治療センター）
- ② 変性疾患を中心とする神経内科と整形外科（神経・運動器疾患治療センター）
- ③ 精神疾患や心身症を対象とする総合的な精神科医療（精神神経疾患治療センター）

以上の3センターを中心にチーム医療の推進、社会に開かれた病院（総合相談、訪問医療等）、医療情報トータルシステムの導入などを特徴に診療を行っている。

大学病院が総合病院であるのに対し、東病院は専門科が中心であり両病院合同で卒後臨床研修に取り組んでいる。

研修医制度の概要

- (1) 研修医は全国公募により採用する。
- (2) 研修医は組織上病院長直属である。
- (3) 研修医期間は原則として2年とする。
- (4) 研修医は初期臨床研修プログラム¹研修カリキュラムに従いローテイト方式または総合診療方式（スーパーローテイト）により研修を行う。
- (5) 研修医として2年間の研修を修了し、引き続き研修を希望する者は、選考手続を経て助手（病棟医）として3年間（内科、外科、心臓血管・呼吸器外科、眼科は4年間）の研修に従事することができる。

1. 診療科 歯科を除く全科
2. 応募人員 初期臨床研修プログラムに明記
3. 応募資格 医師免許取得者及び平成14年度春実施の医師国家試験に合格し、医師免許取得見込の者
4. 処 遇
 - (1) 研修医には、給与月額固定給150,000円（現行）のほか、住宅管理手当、宿日直手当、通勤手当、扶養手当を支給する。但し賞与は支給しない。
 - (2) 社会保険適用
 - (3) 病院敷地内に独身用研修医、病棟医宿舎がある。（各自一定の実費を徴収する。）
5. 提出書類
 - (1) 採用願
 - (2) 履歴書
 - (3) 身上調査書
 - (4) 住民票記載事項証明書又は住民票
 - (5) 医師免許証の写し、卒業証明書、卒業見込証明書のいずれかを提出
 - (6) 成績証明書
 - (7) 健康診断書
 - (8) 写真2枚（1枚は履歴書貼付）

(注) I. 採用願、履歴書、身上調査書、健康診断書は本院指定の書式による。
 II. 医師免許取得見込の者は、卒業証明書または卒業見込証明書を提出し、医師国家試験合格後に医師免許証を追加のこと。
 III. 他の機関（指定病院、大学病院等）に引き続き当院にて研修を希望する者は、臨床研修歴を証明する書類及び所属機関の長の推薦状を添えるものとする。